

# 地域特性と公共交通の現状整理 概要

## 1. 地域公共交通網形成計画の策定に向けて (P.1~P.3)

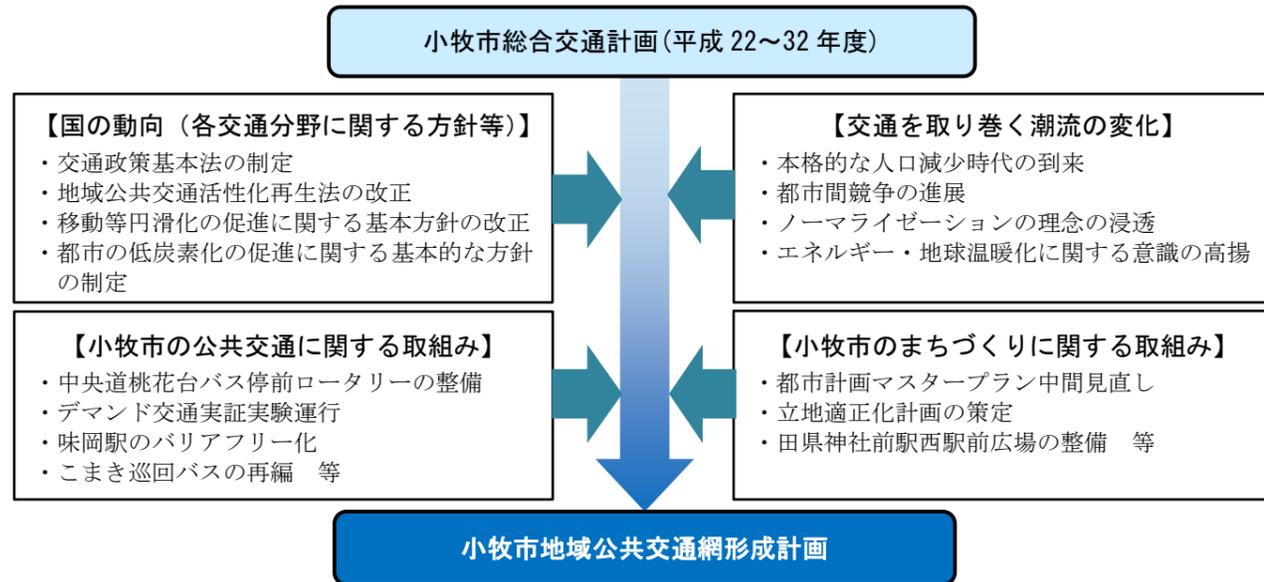
### (1) 小牧市総合交通計画策定後の社会動向

近年我が国では、本格的な人口減少時代の到来等の社会潮流を踏まえ、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律(地域公共交通活性化再生法)が改正され、地域公共交通網形成計画が策定できるようになりました。

一方、小牧市では、平成18年10月の新交通システム桃花台線廃止などを踏まえ、平成23年3月に小牧市総合交通計画を策定し、こまき巡回バスの再編等の取り組みを実施してきました。また、都市計画マスタープラン中間見直しや立地適正化計画の策定、観光振興の重要性が増していることや、公共交通に対して福祉的かつ個別の要望が多く寄せられているなど、小牧市内の社会的動向が変化しています。

このような背景を踏まえ、小牧市総合交通計画の内容をベースとしながら、まちづくり、観光振興、福祉施策と連携し、持続可能な公共交通ネットワークを形成するため、「小牧市地域公共交通網形成計画」を策定します。

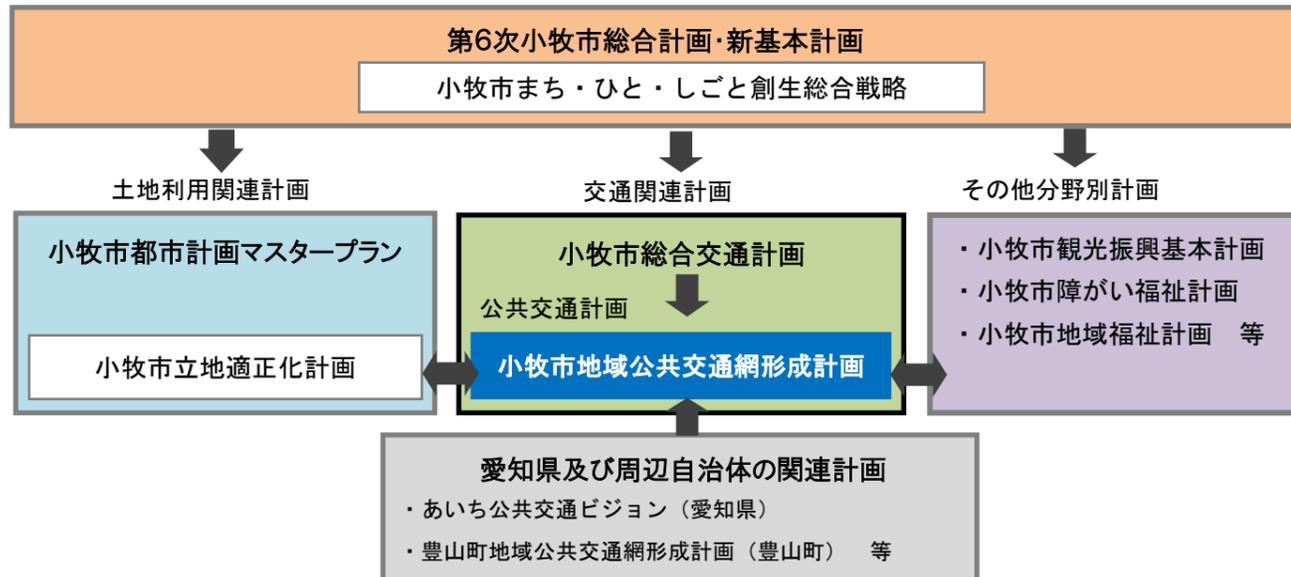
図 小牧市総合交通計画策定後の社会動向



### (2) 地域公共交通網形成計画の位置づけ

小牧市地域公共交通網形成計画は、第6次小牧市総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略を上位計画とするとともに、他の分野別政策・計画との連携・連動を図り、その主要課題に対して公共交通の視点からその基本方針や有効な方策を定めるものであります。

図 地域公共交通網形成計画の位置づけ



## 2. 小牧市総合交通計画の進捗状況 (P.4~P.17)

### 重点プロジェクトの進捗状況

小牧市総合交通計画では、「地域の活力を育み、地域が支える持続可能な交通体系」を基本理念に掲げ、小牧市が目指すべき将来像の実現に向け、中心市街地をはじめとする集約拠点の形成を支える公共交通を軸とした都市総合交通体系の確立とこれを具現化する個別の都市交通政策を施策パッケージとして示しています。

この施策パッケージを取りまとめた重点プロジェクトのうち、公共交通に関連する7つの重点プロジェクト毎に、該当事業の達成状況を、◎(事業内容のとおり実施)、○(事業内容を一部変更して実施または継続して実施中)、△(事業を実施できていない)の3段階で評価しました。

表 小牧市総合交通計画に掲げる重点プロジェクトの進捗状況

重点プロジェクト名	事業実施概要	達成状況
東西公共交通軸や基幹バスについては、高い運行頻度や速達性・定時性の確保、高い品質のサービス水準の確保を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央道桃花台バス停前ロータリーを整備するとともにこまき巡回バス停留所を設置し、こまき巡回バスと高速バスの乗り継ぎ利便性を強化した。</li> <li>こまき巡回バス(地区内幹線系路線)は小牧駅へのアクセスと概ね1時間に1本の運行(運行間隔)を確保した。</li> <li>ピーチバス(小牧市役所前~小牧駅前間)を増便した。</li> <li>名鉄バス路線へのICカード、バスロケーションシステムを導入した。</li> <li>名鉄バス停留所(桃花台センター、小木バス停)を改修した。</li> </ul>	○ 増便によるバス運行の強化や、ICカード等の導入が達成できていない路線がある。
小牧駅においてトランジットセンターの整備を進める。(異なる交通機関相互の円滑な乗り継ぎ機能を有した交通結節点としての機能強化を図る。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年9月に小牧駅周辺の利用実態調査を行い、駅の交通結節点としての利用状況の把握や施設需要などの推計を行った。</li> <li>平成27年3月に整備に関する市民アンケート調査を実施した。</li> </ul>	○ 今後も整備の検討を行う。
桃花台地区においてトランジットセンターの整備を進める。(高速バスや基幹バスとの結節点としての機能強化を図る。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年3月に、桃花台線旧車両基地用地内に、中央道高速バス利用者の送迎用として、中央道桃花台バス停前ロータリー、自転車等駐車場及びパークアンドライド駐車場を整備(供用開始)した。</li> <li>平成28年4月に、中央道桃花台バス停前ロータリー内にこまき巡回バス停留場を設置した。</li> </ul>	◎
名鉄小牧線各駅(小牧駅を除く)において交通結節機能の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>田県神社前駅西駅前広場の整備については、計画どおり事業が進捗しており、平成29年3月の供用開始を目標に工事の進捗を図る。</li> <li>平成29年4月に、田県神社前駅西駅前広場内にこまき巡回バス停留所を設置するよう調整を図る。</li> </ul>	○ 小牧口駅における駅前広場の整備を図る。
自発的な行動の変化を導くため、コミュニケーションを中心とした交通施策であるモビリティ・マネジメントを展開していく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通利用促進協議会が主体となって交通事業者と連携し、時刻表の配布やバスの乗り方教室を開催した。</li> <li>東田中地区において、まちづくり出前講座『わたしたちの暮らしと公共交通』を開催し、公共交通をPRした。</li> </ul>	○ 企業・職場や学校教育において実施されていない。
地域住民の参画による、地域住民の生活ニーズに応じた巡回バスの見直し及び評価を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>こまき巡回バスの路線再編時に公共交通地域懇談会を開催し、地域住民のニーズを把握した。</li> <li>こまき巡回バスの路線再編により交通空白地を経由する路線を運行した。</li> </ul>	◎
地域住民の参画による、デマンド運行等地域独自の交通システムの試験的導入を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年8月~平成26年7月に、北部地区と東部地区において、デマンド交通の実証実験運行を実施した。</li> <li>デマンド交通の運行形態は、エリア限定の自由経路ミーティングポイント型であったが、平成26年2月からは自宅前での乗降が可能となった。</li> </ul>	◎

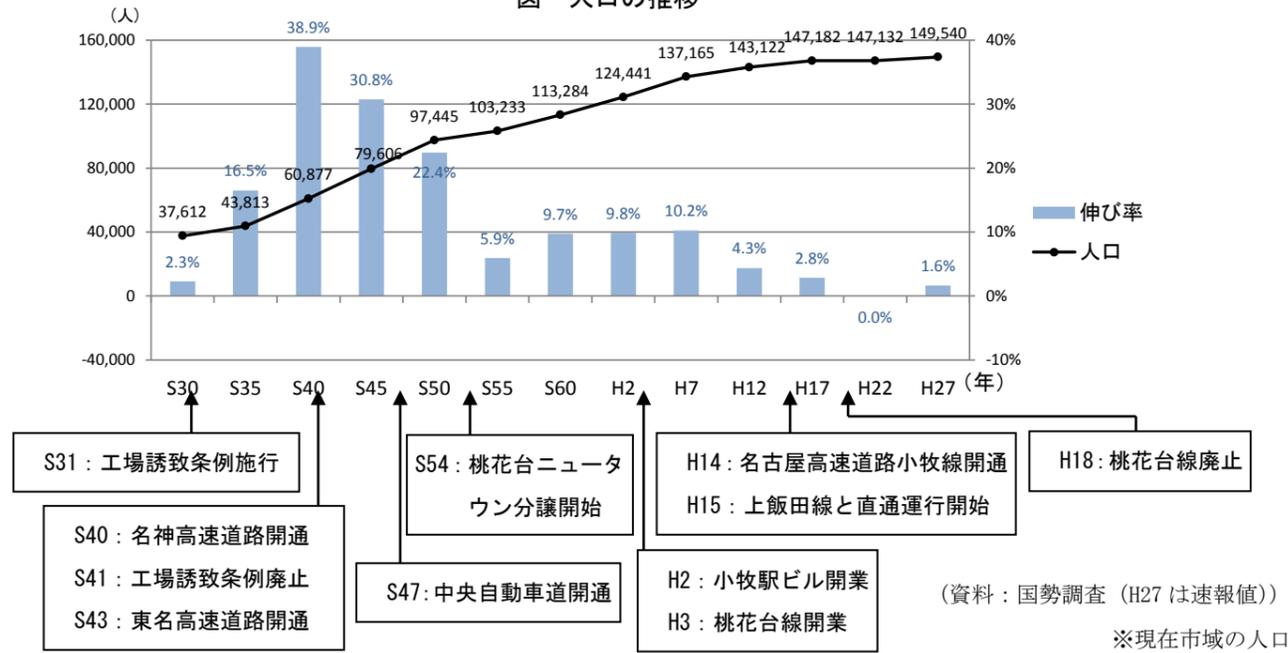
なお、今回確認した各重点プロジェクトに対する事業実施概要と達成状況の評価を踏まえ、小牧市地域公共交通網形成計画の行動計画を来年度作成します。

### 3. 地域特性の整理 (P.18~P.36)

#### 人口の動向

■本市の人口は、ほぼ一貫して増加傾向にあります。特に、昭和30~40年代にかけて人口増加が顕著にみられ、その後も、微増傾向を続けてきましたが、最近の20年間では、伸び率は鈍化しています。

図 人口の推移



### 4. 主要集客施設の立地状況 (P.37~P.40)

#### 主要集客施設の立地状況

■本市の主要集客施設は概ね鉄道やバス路線の沿線に立地しています。しかし、国道や県道沿い等に立地した施設の中には、駅やバス停から離れている施設も存在しており、アクセス利便性の向上が課題です。

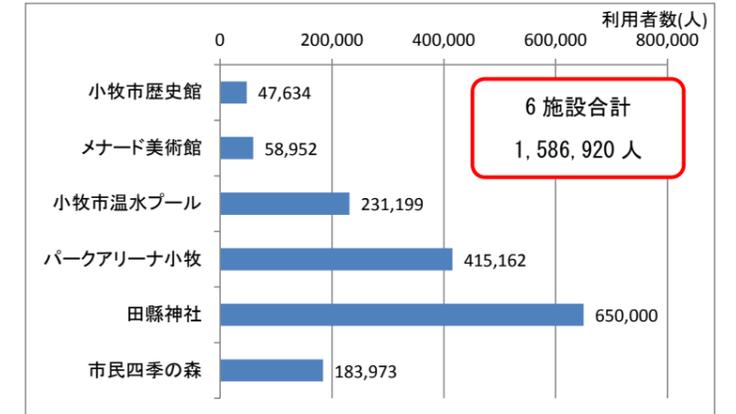
図 主要集客施設の立地と公共交通網



#### 主要観光施設の利用状況

■愛知県観光レクリエーション利用者統計によると、市内の主要観光施設として田縣神社、パークアリーナ小牧、小牧市温水プール等が立地しており、これらの施設の年間利用者数は合計で約159万人となっています。

図 主要観光施設の年間利用者数 (平成27年)

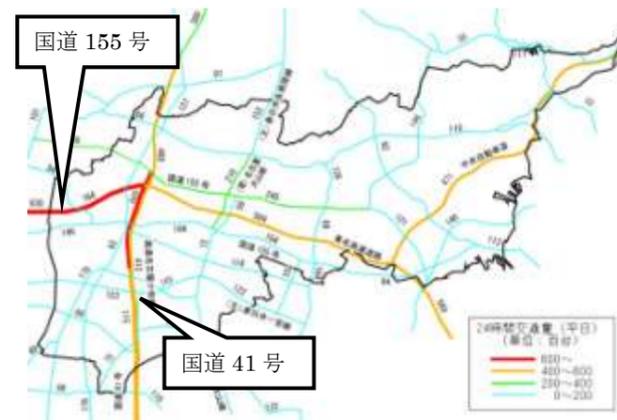


### 5. 既往調査から見た移動特性の把握 (P.41~P.46)

#### 道路交通センサスから見た自動車交通の状況

■国道41号では交通量が4万台を超えています。また、国道155号では、交通量が2万台を超えています。

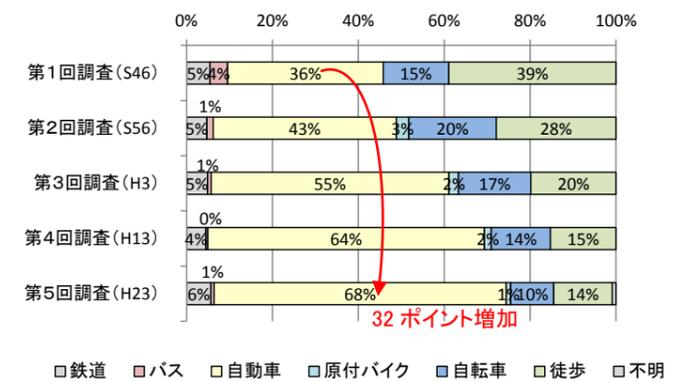
図 交通量 (平日)



#### 中京都市圏パーソントリップ調査から見た移動特性

■外出するときの移動手段(代表交通手段)の利用割合の推移をみると、昭和46年以降、「自動車」の占める割合は増加を続けていますが、「自転車」、「徒歩」の割合は減少してきています。

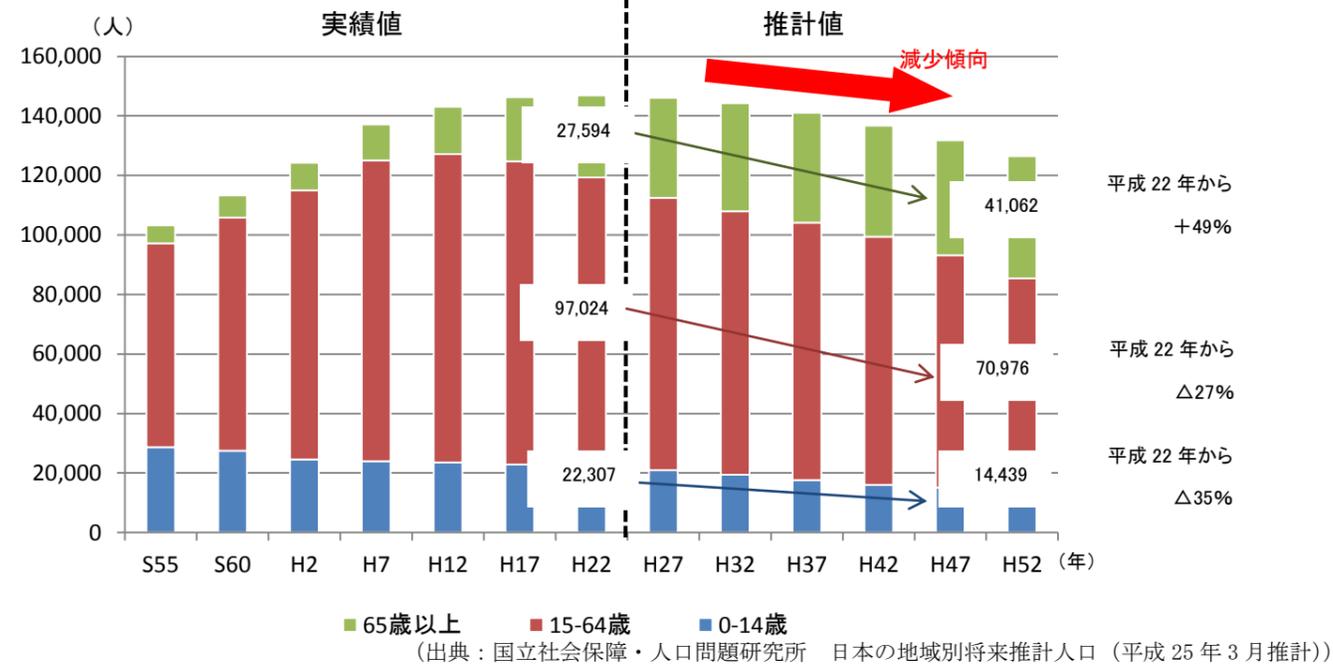
図 代表交通手段別利用率の推移 (小牧市)



#### 将来人口

■小牧市立地適正化計画にて採用している国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計(社会移動あり)によると、これまでの人口動態が今後も続く場合、本市の人口は、平成22年以降減少を続けることが見込まれています。

図 年齢階層別将来人口の見通し (社人研 社会移動あり)



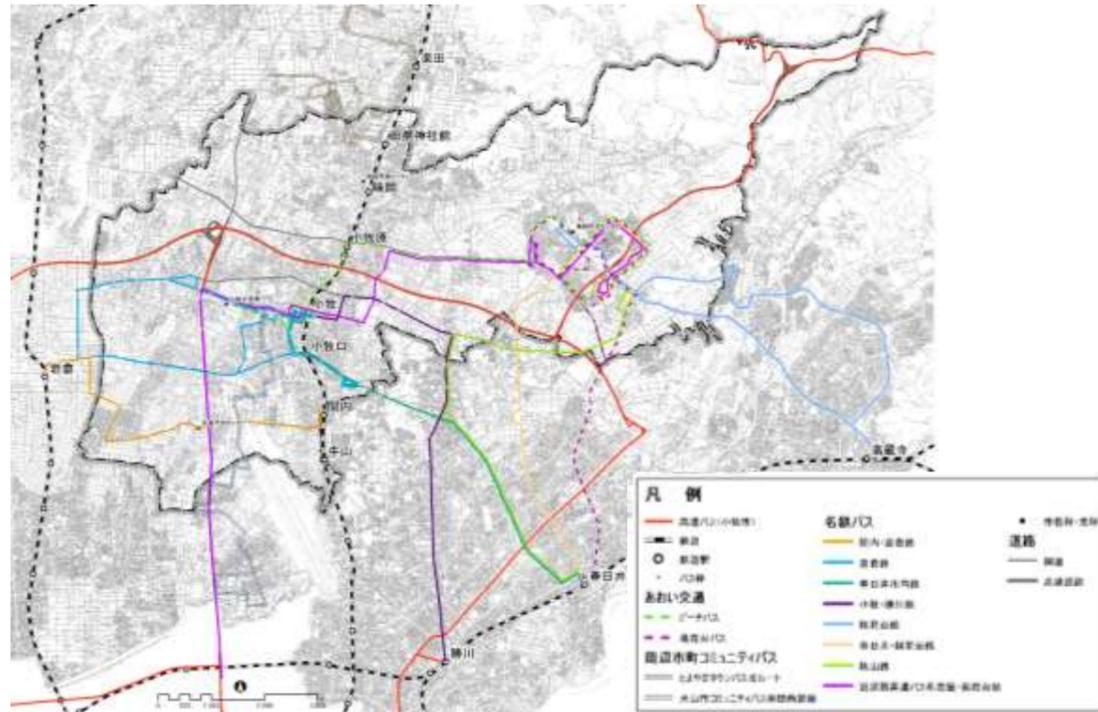
## 6. 公共交通の現状 (P.47~P.67)

### (1) 運行状況

#### 運行状況

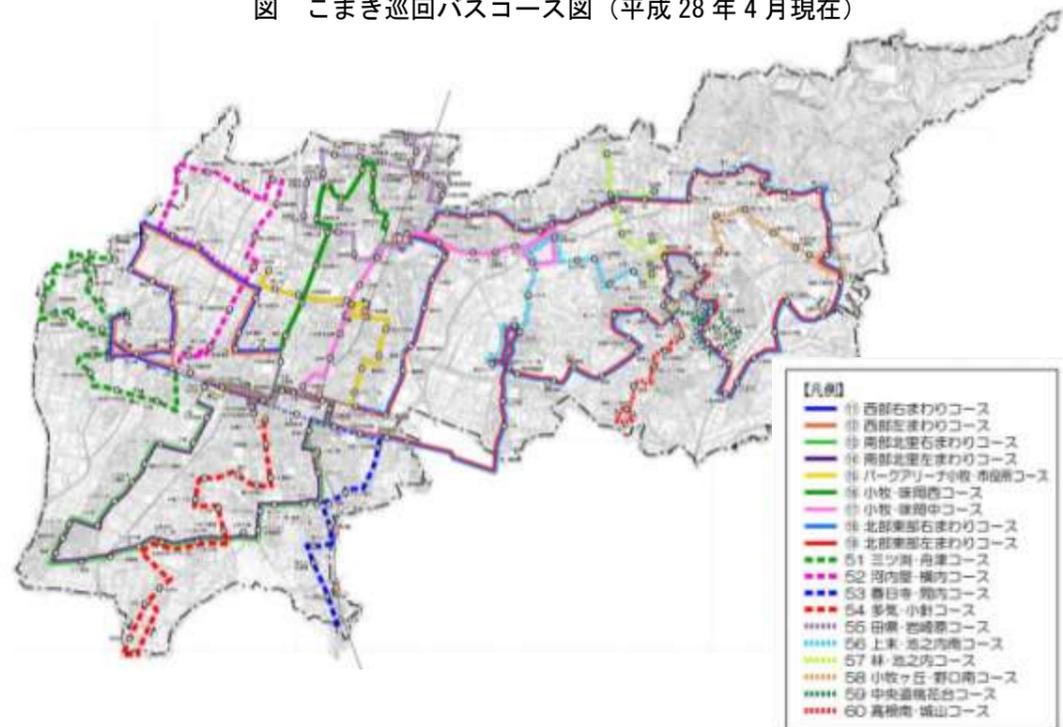
- 本市の鉄道は、名鉄小牧線が市中央部を南北方向に縦断しており、市内には小牧駅をはじめ6駅（間内駅を含む）、市境に近接して牛山駅が設置されています。
- 本市のバスは、民間の交通事業者により名鉄バス、ピーチバス、桃花台バスをはじめとする路線バスと近距離高速バスが運行されています。また、中央道桃花台バス停には、近距離高速バス等の高速バスが停車します。さらに、本市ではこまき巡回バスを運行しており、隣接する犬山市及び豊山町による犬山市コミュニティバス、とよやまタウンバスが運行されています。

図 路線バス路線網図（平成28年4月現在）



(資料：小牧市公共交通マップ、国土数値情報)

図 こまき巡回バスコース図（平成28年4月現在）



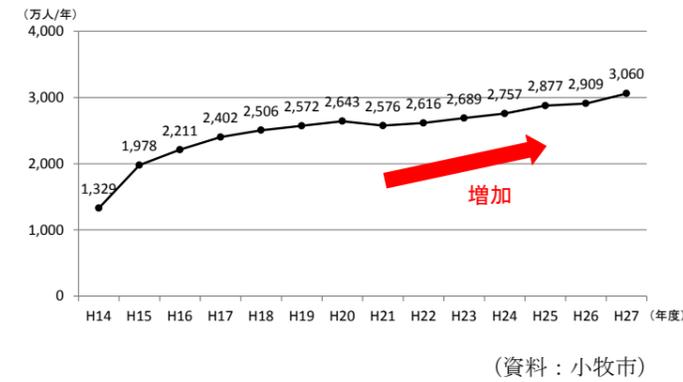
(資料：小牧市)

### (2) 利用状況

#### 名鉄小牧線の乗降客数

- 名鉄小牧線の乗降客数（犬山駅から平安通駅までの合計）は年々増加しており、平成27年度には、年間約3,060万人となっています。

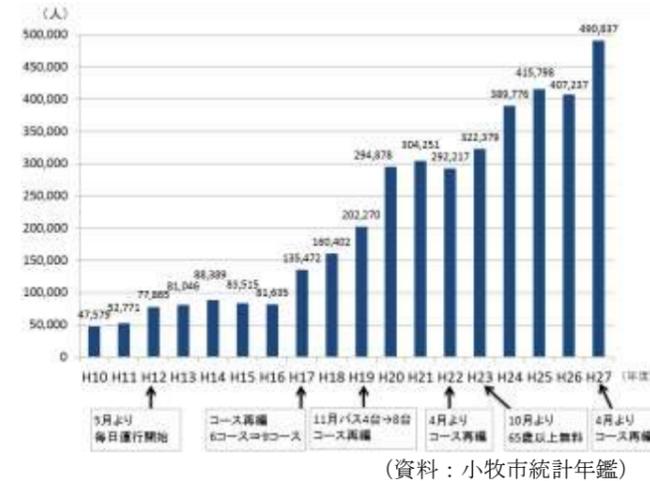
図 名鉄小牧線乗降客数の推移



#### こまき巡回バスの利用者数

- こまき巡回バスの利用者数は、路線の拡充や運行頻度の増加等のサービス水準の向上に伴い、増加傾向にあります。
- 平成27年4月と平成28年4月の2箇年にわたる再編により利便性向上を図った結果、平成27年度利用者数は前年から約8万人程増加しています。

図 こまき巡回バスの利用者数推移

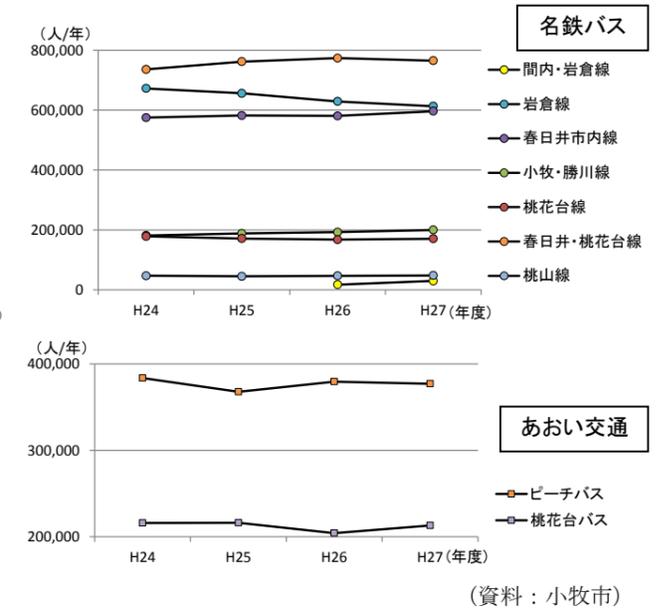


※4月より南部・中部・西部・北里地区のコース再編、市内全域で8コース8台→13コース13台

#### 路線バスの利用者数

- 路線バスの利用者数は、平成24~26年度にかけて、春日井市内線や春日井・桃花台線、小牧・勝川線で増加しています。一方、岩倉線や桃花台線、ピーチバス等は、減少傾向にあります。

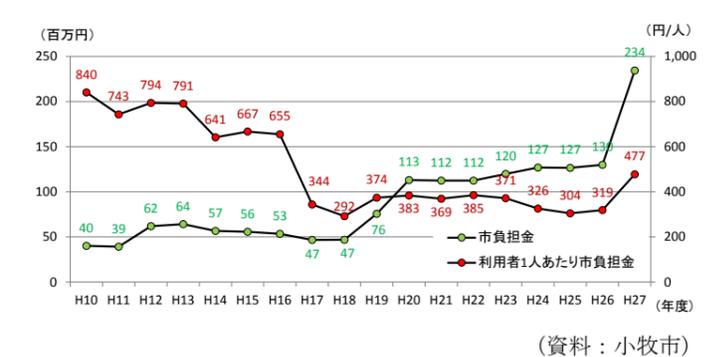
図 路線バスの利用者数推移



#### こまき巡回バス運行負担金

- 平成10年度以降、サービス水準の向上により、運行に係る市負担金は増大し、平成27年度では年間約2.3億円となっています。
- 一方で、利用者が増加したことにより、利用者1人あたりの市負担金は運行当初と比べ減少しています。

図 こまき巡回バス運行負担金\*の推移



※市負担金は運行経費から運賃収入等を差し引いた額

※利用者1人あたりの市負担金は市負担金を利用者数で割った数値